

モデルプログラム H-4 子どもの日本語教育の理論と方法—教科の指導—

ねらい	外国人児童生徒等の教科学習における困難を理解し、学習指導要領が設定する目標や学習内容の体系性を理解して教科学習の支援について考える。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える/変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える/変わる力（教師としての成長）
主な内容	H 子どもの日本語教育の理論と方法
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60 分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 外国人児童生徒の教科学習における困難について確認する（10分） ・教科の指導(H)	1. 教科書を見て、外国人児童生徒の困難について、次のポイントで話し合う。 ・児童生徒の教科学習経験・有する知識とのギャップ ・教科の授業への参加の困難 ※支援をしている児童生徒が使用している教科書（算数・数学か理科）の持参を求める。
2. 支援している児童生徒の学年の学習指導要領の内容を知る。（20分） ・教科の指導(H)	2. 支援している児童生徒の学年の学習指導要領から次の内容を読み取る。 ・1で見た教科書の内容は学習指導要領のどこに基づいて構成されているか。 ・児童生徒が教科学習でどのような力を高めているのか。 ・読み取ること：学年による目標の違い、学習内容とその系統
3. 算数科の指導方法について知る。（20分） ・指導方法（H） ・「主体的・対話的で深い学び」（H） ・授業のことば/教科のことば（H）	3. 教師用指導書から授業の進め方を想像し、学校での教科教育の指導方法について知る。 1) 教科の指導方法について読み取る。 ・問題解決型の学習が重視されていること ・子どもたちの思考の流れに合致するように、内容が順に配置され、組み立てられていること ・生活経験を学習に結びつけていること 2) 教師の指示や発問、教科の重要なことばを抜き出し、児童生徒が理解できるようにするための工夫を考える。
4. 支援員としての教科学習の支援方法について検討する。（10分） ・教科の指導（H）	4. 1で話し合った外国人児童生徒の困難を、支援員としてどのような方法でサポートできるか、ペアで話し合う。 ・一緒に学ぶこと ・じっくり考える時間を与えること ・学力に合わせて下学年の内容を学ぶ機会をつくること
備考	15分程度で扱う場合は、3を中心に扱う。